



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
FAX:0593-32-0733

掲示板法話

親鸞さまに遇えてよかった あ 苦難も包まれ安らぎとなる



「ご本山の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要の直前、東日本大震災が起こりました。それから五年を経たこの度、子どもたちの大遠忌法要の一月前、熊本地震が発生しました。連日伝えられる被災地の惨状に心が痛みます。

地震列島・日本に生きる私たちは、「他人事(ひとこと)ではない」と思わずにおれません。このような不安と混乱の世に私たちは親鸞聖人の教え、生き方から何を学ぶのでしょうか？

親鸞聖人は、平安時代末期律令制度が崩れ、武士が台頭して戦乱が相次ぎ、飢饉や災害の前に人々が翻弄されてゆく世の姿を我が事として深く悲しまれたのではないのでしょうか？

そして学問や修行の世界も名譽や栄達の具になり下がっていく愚かしさを看過できず山を下りる決断をなされ、法然聖人の専修念仏の道に本当の救いを見出されました。法然聖人の、専修念仏門においては、武士も公家も老若男女の区別もなく一味平等に救われる世界が開かれていくのです。如来さまの本願力によりあらゆる

人が一味平等に救われていくという親鸞さまの教えにより、沢山の妙好人と言われる念仏者が輩出されました。先日、米国在住の日本人女性からメールが届き、中村久子さんの話が書かれています。彼女の亡きお母さん(今年五月十五日一周忌を迎える方)が航空便で送った本を何度も読み返して綴られたメールです。中村久子さんは岐阜県高山市に生まれ、脱疽病のため、四歳で両手足を切断される悲運を背負いましたが、厳しい母のしつけと念仏者の祖母の教育、自身の独学、努力で自立の道が開けました。祖母や母との死別、結婚と出産、夫との死別、再婚、仕事の苦勞などを乗り越えて生きました。しかし勿論、身体的束縛の中を乗り越える心の苦悩はいかんともしがたいものがありました。が、「歎異抄」に触れて「生かされている世界」に解放されたのです。その心境は次の歌に詠まれました。

「手はなくも 足はなくともみ仏の
そでにくるまる身は安きかな」

それまで憎み避け厭うた一切の環

境とわが身が、合掌と共に頂く世界として大転換されたのでした。

「南無阿彌陀仏をとなふれば この世の利益きわもなし」という聖人の現世利益和讃の世界がここに躍動しています。我が亡き父も往生の間際、「親鸞さん(に遇うて)よかった」と虫の息のように言い残してくれました。

「苦難も包まれ安らぎとなる」。人間として最高の宝物のような生き方を後に続く人たちに伝えていきたい。これが親鸞聖人七五〇回大遠忌法要の要だと思えます。



☆行事ご案内☆

5/15親鸞聖人750回大遠忌法要

- 8時：門徒さん集合、8時半より稚児衣装渡し(小杉公会所)
- 12時45分：稚児集合、稚児宿勤行(総代・館十三生宅)
- 1時：稚児練り開始(花火の祝砲) 雅楽と役稚児先頭に僧侶、230名以上の稚児と家族付添総勢千名程の稚児行列本堂『法要の集い』仏教讃歌(稲葉梨恵様、星合智美様)
- 2時：音楽法要、(高角雅楽10名とキーボード山本夏菜様)
- 3時：記念講演河内美舟先生(山口、社会福祉法人理事長)

◆平成28年度門信徒総会&打ち上げ会

5月29日(日)午前10時、昼食用意、法要写真披露

新年度門信徒会会長に服部則男氏、会計に館賢二氏が選出
※三重組仏婦会会長に館正子様、門推役員に佐藤和義氏が選出

- ◆絵手紙教室 6月14日(火)午前10時 庫裏食堂 11回目
- ◆キッズサンガ 6/4(土)4時。鐘つきは毎夕5時年中無休
- ◆三重組コーラス 6/24東海北陸仏婦大会出演(名古屋)
- ◆三重組仏教講習会 6/14(願生寺様) 15日(光了寺様) 16日(常延寺様) 講師：藤澤信照師(滋賀)

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報閲覧。
毎日更新のブログ「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設7年10か月で20万3千訪問、一日約90訪問、悩み相談、大歓迎！即返信

- ◆『一線会テレホン法話』059・354・1454
- ◆新納骨堂：後継者のない方、お墓でお困りの方ご相談下さい
- ◆法事場所でお困りの方、寺にご相談下さい。本堂使用可

今月の写真アラカルト



平成28年初参式：10名の仏の子供誕生

坊守スケッチ

親鸞様なら今をどう生きる？



いよいよ親鸞聖人七五〇回大遠忌法要をお迎えすることができました。この法要が私にとってどんな意味があるのかを、改めて考えてみました。八〇〇年前の鎌倉初期と平成の現代では、全く時代背景が違います。それなのに親鸞様の教えが、今もなお受け継がれているのは、変わらぬ真実がある筈です。それを知らずして、大遠忌法要だけを勤めれば、単なるイベント・お祭り騒ぎに終わってしまいます。

先ず親鸞聖人は『時代の変革者』だったと思います。肉食妻帯が禁止されていた当時の僧侶の世界で、妻子を持ち家庭を営みながら求道生活を歩まれた決断！度重なる弾圧にもめげず信念を貫かれた強い意志が、お顔の表情からも推察できます。

次に思い浮かぶのは、親鸞様は民衆と共に歩まれた方でした。親鸞様の慈悲の目線が上流階級ではなく、常に大衆の苦しみや悩みに注がれています。また難しい漢文だけのお経を、庶民でも親しめるように、ひらがな交じりの七五調の『和讃』に著されました。今お寺を取り巻く環境は、過去に経験したことがないほど厳しいものです。かつて前ご門主様は「沈む筈のない大企業が危機に陥っている。伝統仏教教団も同様だ。伝統の上に胡坐をかいて真摯に民衆の声に耳を貸さなかつ

た。仏教の言葉が理解しがたいという不満を聞く。法話が教えを説くだけに終わる。僧侶が生活者の悩みや苦しみに答えていない。ハンドルのような仏教の勉強ではなく、人々が心から信じるようなエンジンであって欲しい」と、寺の危機感を訴えられました。

今私自身にできることは、親鸞様ならばどうされたかを心に問うて、すぐに行動することです。寺からの情報発信(毎月の寺報・毎日のブログ)や、ネットを使った悩み相談など、皆様と共に歩む寺でありたいと思います。

そして親鸞様の教えを次世代の子供達にも受け継いでもらえるように、キッズサンガや鐘撞きの活動を通して、「仏の子供」を育てるお手伝いも継続したいと思います。

◇二度目の熊本大地震(4/16)の日、三全仏婦主催『初参式&降誕会』が10名の赤ちゃんの参加で賑やかに動められました。新たな仏の子供誕生。地域で支え、温かく見守りましょう。

◇新年度の門信徒会役員は、会長に服部則男氏、会計に館賢二氏が選出されました。総会は5月29日(日)午前10時。昼食時に今回のご法要の打ち上げ会を兼ねます。写真披露もありますのでごぞつてご参加下さい。

★館茂子様(90歳・四日市市尾平)4月11日往生の素懐を遂げられました。合掌

☆若院夫婦の「育自な毎日」その20

四月初旬K寺様の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要の稚児行列に参加しました。長男(4)は二回目、長女(1)は初めてのお稚児さんです。お練り開始前からハプニング続出！長女が衣装を着るのを嫌がりません。着せるのも不慣れな私達。長男だけでも手一杯。結局長女は泣いて嫌がるので断念。稚児宿に集まると、今度は長男が眠さと着崩れで泣き始めました。着付け直そうと苦勞する私達に、近くの女性が救いの手を差し伸べて下さいました。何とかお寺まで辿り着き本堂で参拝。その頃長女はベビーカーでぐっすりモード。

しかし本堂で音楽法要が始まると、オルガンと雅楽の音色に驚き、お昼寝から目覚めました。自坊で何度もお勤めしている聞き慣れたメロディー。不思議そうに聞き耳を立てていました。長男からは「ボクの寺のご法要の時も頑張るぞ！」と頼もしい言葉が寄せられました。

育児は両親だけでなく、周囲のサポートも必要です。それを体験した今回の稚児行列参加。子供の成長と共に、私達も学ばせて頂きました。(若坊守)



ホットニュース

◇「立華のご奉仕」、本堂尊前の立華を伊崎栄一氏、館久夫氏、伊崎頭次氏らのご奉納、4月下旬より準備。手間暇かけた見事な立華をご尊前にお供え。

◇役稚児さん16名。伊崎百香、服部杏奈、服部悠希、佐橋来実、服部棧、服部太一、館橙也、館桃佳、館泰豆、森夏、前川彩葉、中西穂乃佳、中西瑞季、中村凜、中村悠那、水谷幸姫、

◇献華・献灯者(敬称略・順序不同)堀野栄子、大橋久美子、伊藤美栄子、川崎弘美、服部邦子、高橋智恵子、森よしみ、落合薫、館正子、伊崎みつ子、館澄代、服部久代、服部淳子、服部絵理、佐藤きみよ、服部せつ子、山下真知子、館ひろ子、服部やす子、服部典子、以上20名(他所8、在所12)

◇お稚児さん募集が4月中旬で230名を超えました。関東や関西の孫さん、鈴鹿、菰野、桑名の市外からも応募。新たな仏縁デビューのきっかけとなりました。当日参詣者の中には埼玉県のご夫婦や県外の方も多数います。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。

◇5/7と5/14の午後、役稚児さん、献華献灯者の練習。また音楽法要(雅楽とキーボード)の音合わせ、司会者の打ち合わせ。5/8(日)午後には門徒総出の準備作業が行われました。皆様のご奉仕に感謝します。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」270号・大遠忌法要記念号です。◇ようこそお参りです。「親鸞さま有難う」の心を子や孫に！合掌。

本日親鸞聖人七五〇回大遠見法要をお迎えする事が
できました。三年前から内外の整備にかかりました。今で
きることを精一杯させて頂けたのも、皆様ののご協力と
ご懇志の賜物です。あれもこれもしなければと気が揉め
ることの連続でした。稚児募集や献華献灯女性の募
集も当初集まるかどうか不安でした。しかし日が近づくに
つれて盛り上がり、あとはお天気次第、全ては阿弥陀様
にお任せしという気持ちが強くなりました。我が力で解決
できることはほんのわずか。皆様のおかげに気付いた時
気が楽になりました。寺に嫁いで四十二年、今回で三度目
の大法要です。私が強く関わりを意識したのは、この法要
が初めてです。高齢者の仲間入りをした私ですが、最後の
ご報謝と、思ってた力の限り勤めます。寺を取り巻く環境
は年々厳しさを増しています。昔と比べて便利になり、モノ
が溢れて豊かな時代になったのに、人々の幸せを感じる
心は薄らいでいます。それどころか以前よりも生き辛さを
感じて不平、不満、愚痴の横行。今回のご法要は八百年の
時空を越えて、親鸞様がお出ましになり、私達にその
原因と生きるために大切なことを気づかせて頂きました。縦の
絆の確かさと、横の絆の有難さを実感できる法要でし
た。二三名も越えるお稚児さんと若い親御さんが合掌
する姿を見て感動しました。今回のご法要が次世代に
つなぐ尊い仏縁になったことを厚く御礼申し上げます。
本日は遠近各地より多数お参り頂き有難うございました。
平成二十八年五月十五日 合掌 善正寺坊守 拝